

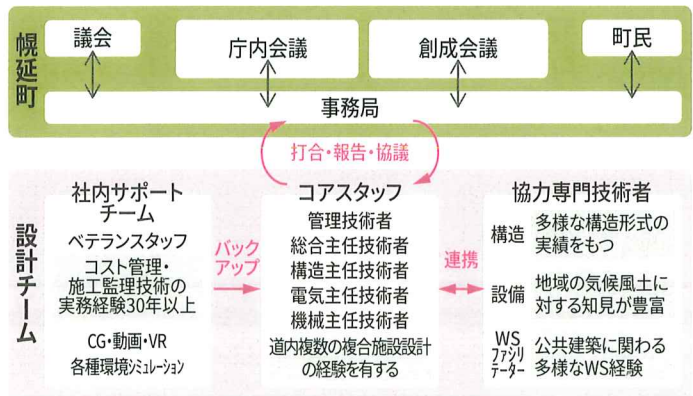
町民のための あたらしい交流施設

あたらしい交流施設は、町民が気楽に訪れることのできる明るく開放的であり、様々な世代が集う活動的な場所となります。周辺の既存施設の機能を補完しつつ連携を深めることで施設間のネットワークをつくり、まち全体が町民の皆さんにとって頼れる存在となることを目指します。



実施方針

業務を迅速に遂行する体制、協力事務所
交流施設の計画・設計は多岐にわたるテーマを並行して進める業務であるため、**十分な人数と協力者からなる体制**を構築します。全体を取りまとめる建築設計には管理技術者、総合主任技術者のほか 2 名の技術者を充て、業務全体を統括します。このほかワークショップ、施工、コスト管理などのサポートメンバーがかかわり業務を確実に遂行します。

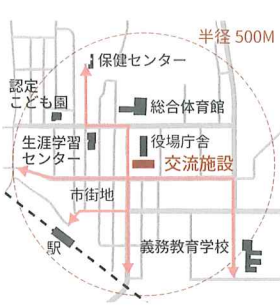


複合施設の設計手法を熟知したスタッフによるチーム体制

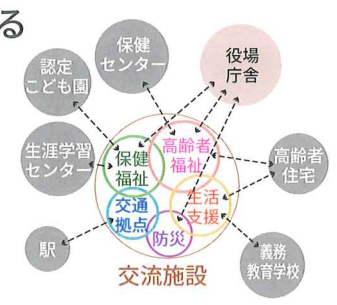
利用者、発注者の皆さんとともにつくり上げる
弊社は 50 年以上にわたり北海道に根差した建築設計活動を行ってまいりました。利用者の皆さんとともに建築をつくるプロセスを大切にしており、発注者・施工者の皆さんとともに多くの建築賞などの評価を与えられてきました。本計画においても、関係者が一つのチームとなって意見を交わすことのできる体制をつくります。

設計上の配慮事項

歩いてまわれるまちづくり
まちの中心市街地半径 500 メートル以内に、幌延駅や役場庁舎を含め町民のための主要施設が集積しています。新しい交流施設はこれらの中心になることを意識します。**四方からのアクセスを容易に**することで、施設間を歩いてまわれるようなネットワークをつくります。**町内主要施設の中心となる交流施設**



既存公共施設を再編する
新しい交流施設は既存施設の足りない部分を補いつつ、今までになかった新しい機能を追加した、町民のための生活拠点となります。**交流施設内の機能を高めながら、周辺施設との連携**やつながりを意識します。**既存施設と連携し互いに機能を高める交流施設**



コミュニティ棟とコア棟、適材適所の空間づくり
バリアフリーを重視して町民利用の諸室をすべて 1 階に配置することを基本とします。シンプルな矩形の平面計画にすることで、**建物周囲に空地を確保**し車両レイアウトや除雪を容易にする配置計画を想定します。施設中央には災害時対応のための設備が置かれた**堅牢なコア棟**を配し、その周囲を平屋の**コミュニティ棟**が取り囲む構成とします。コミュニティ棟は様々な機能がフレキシブルにレイアウトできるように壁を極力なくし、外部へと開かれることでまちとつながります。



業務実施上の配慮事項

ZEB 性能達成に向けた機能性と快適性の追求
弊社は道内公共施設において 3 件の ZEBReady、1 件の NearlyZEB の取得実績があります。小中規模の施設において ZEB 相当の性能を確保するには、性能向上のためのコストを抑えながらパッシブ技術などの低コストの手法を効果的に取り入れる必要があります。環境シミュレーションなどを駆使して環境性能と快適性の両立を目指します。

わかりやすい情報共有ツール

打合せは対面を基本としますが状況に応じて遠隔会議を交えながら滞りなく業務を進めます。図面だけではなく、模型やパース、コンピューターグラフィックや動画、環境シミュレーションなどを交えて職員や町民の皆さんにわかりやすく客観的に議論できる場をつくります。

地場で建設可能な工法の採用

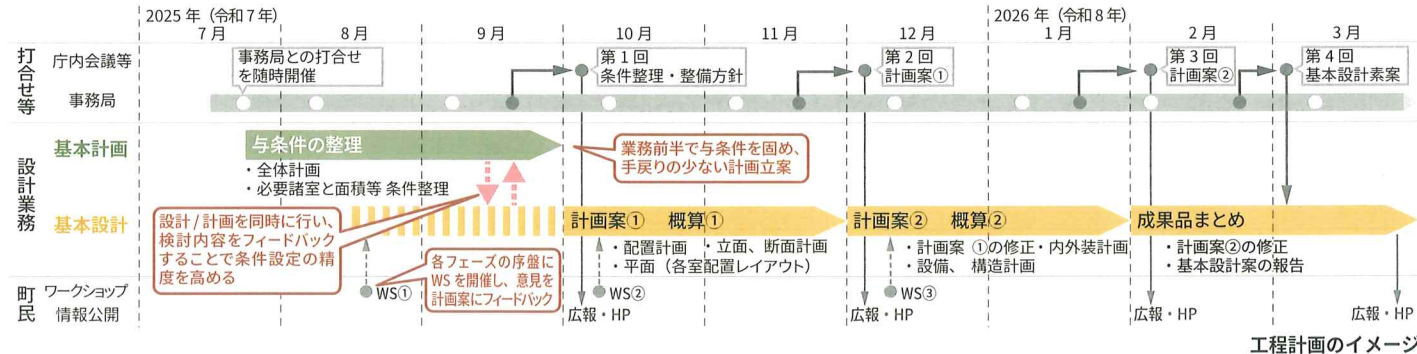
昨今の建設費上昇に配慮し、一般的、汎用的な工法で施工可能な設計内容とします。建設コストを抑え、さらに地場の施工関係者の参入を容易にします。



多くの複合施設設計の実績を活かす
弊社は過去に北海道内で同様の複合施設設計を 6 件手がけてまいりました。その経験で培った、複数の機能を複合させる設計手法を本業務において反映し、幌延にふさわしい町民の生活拠点の在り方を追求します。



複合施設の弊社実績

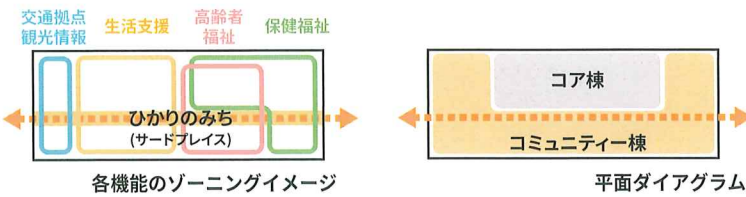


多様な居場所をつくる「ひかりのみち」

基本構想では、市民の生活にかかわる複数の機能が収められることが示されています。具体的な計画、設計においては、異なる様々な部屋や空間同士を有機的に連携させることで相乗効果を生み出す提案を行います。想定される機能以上の活動内容を引き出せるように、町民の皆さんと検討を進めます。

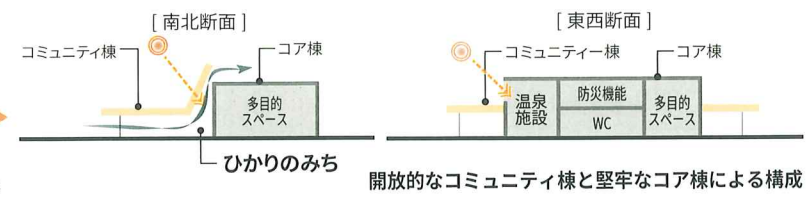
1. 「ひかりのみち」：機能を貫き交流を促す

日常的に町民が利用する交通拠点、生活支援、高齢者福祉、保健福祉の機能を1階にまとめて配列し、自然光が降り注ぐ「ひかりのみち」によってつながります。利用者ごと分けられた4つの機能が連続し、町民の交流を促します。

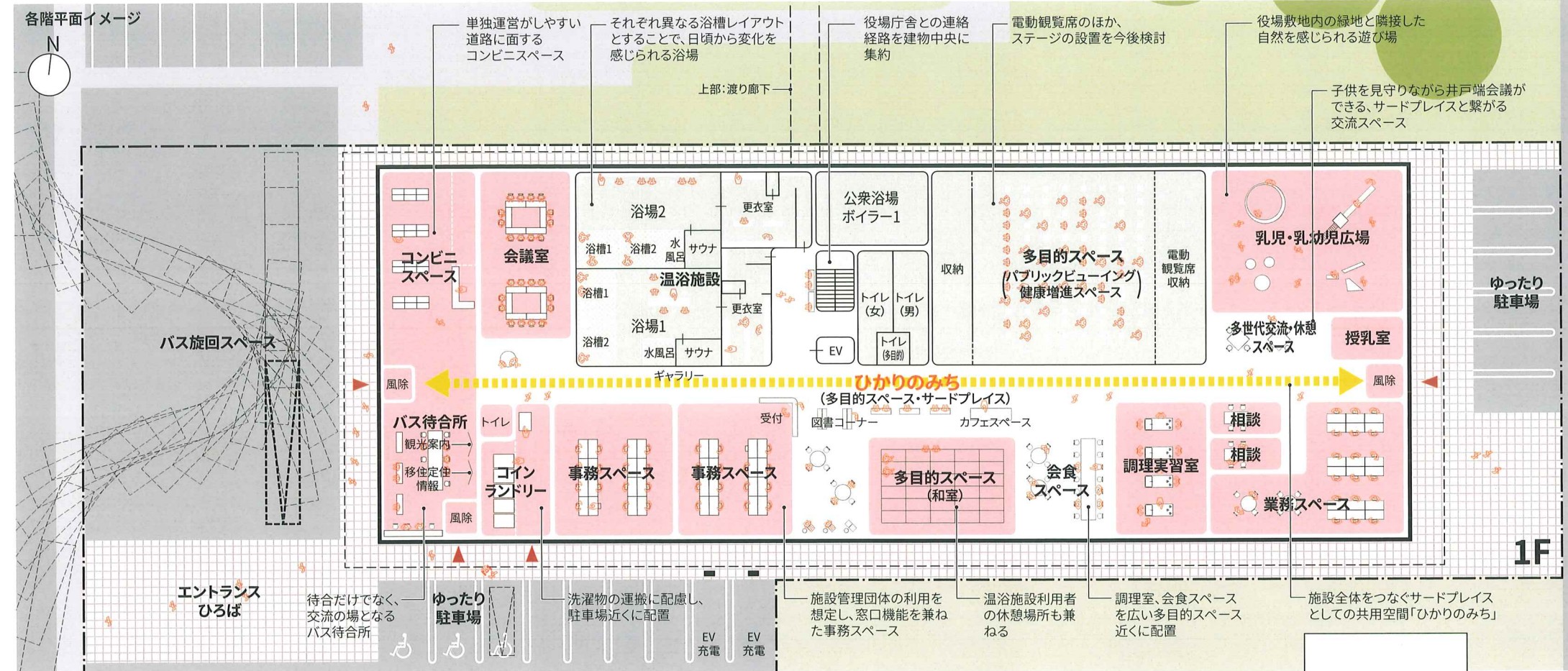
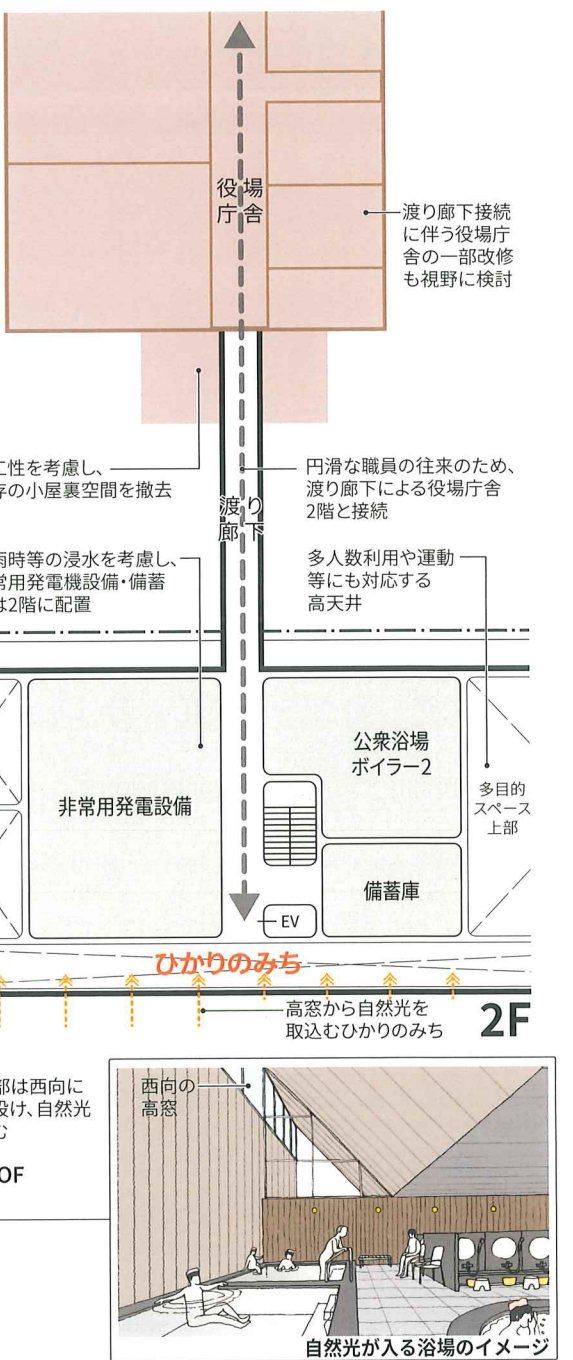


2. 開放的なコミュニティ棟、閉じたコア棟

中央のコア棟には2階に防災機能、1階には大空間である温浴施設や多目的スペースを設け、堅牢なつくりとします。コア棟を取り囲む平屋のコミュニティ棟はオープンで見通しの良い空間であり、機能の変化や将来の改変を容易にします。

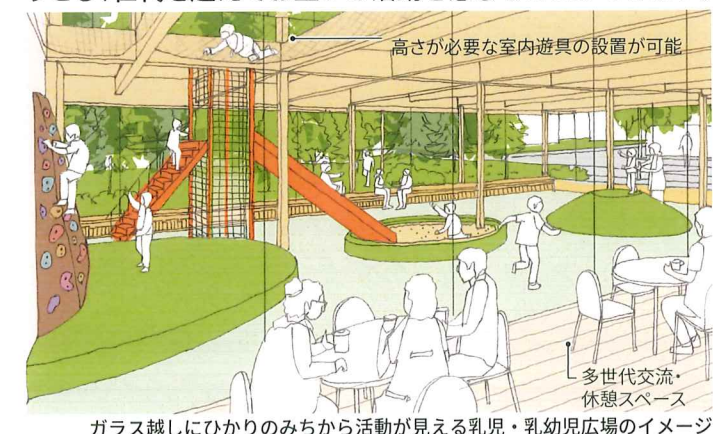


別記様式12（10（2）②イ）a）関係）



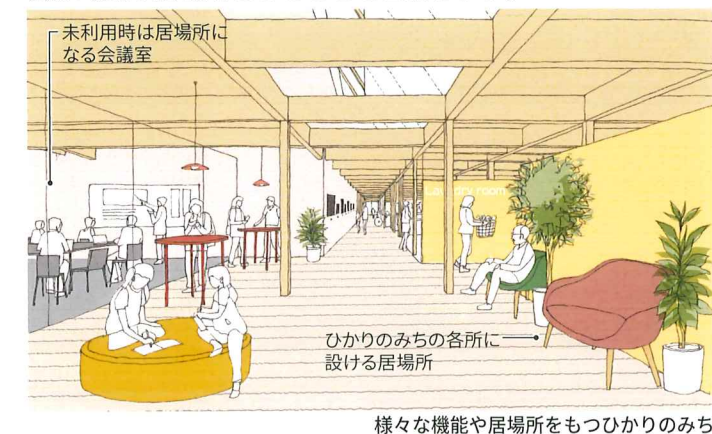
3. 視線が通りお互いの活動があふれ出す場所

閉じた部屋や壁を減らし、廊下の少ない一体空間をイメージします。独立した機能が必要な温浴施設や相談室などは壁で囲いますが、音に対する配慮が必要な多目的スペース、乳児・乳幼児広場などは中の様子が見えるガラスの間仕切りとします（遮蔽が必要な時はカーテン利用）。そのほかの諸室においても可動間仕切りや家具などでの最小限の仕切りとし、世代を超えてお互いの活動を感じることができます。



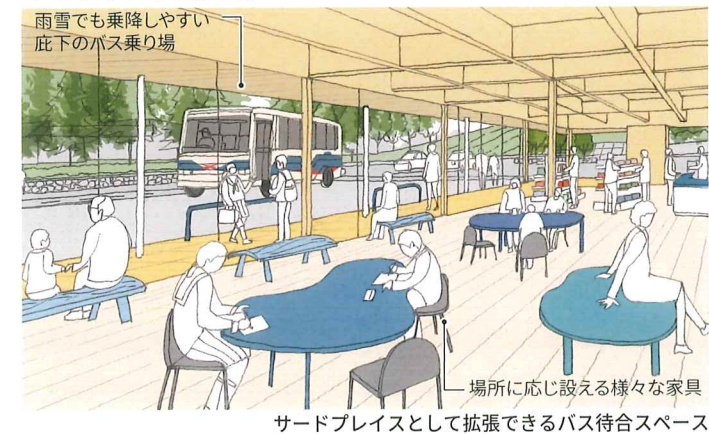
4. 廊下をつくらない一体空間、活動面積の増加

主たる移動空間である「ひかりのみち」は、単なる廊下ではなく、町民の居場所、隣接する部屋との一体空間、ギャラリーとしての空間など具体的な機能を持ちます。同じ延床面積であっても活動のためのスペースが増加します。家具レイアウトや壁のしつらえを工夫し、全ての空間が町民の居場所となることを目指します。



5. 様々な世代が交流するコミュニティ棟

施設の中央にあるサードプレイス（図書コーナー）、多目的スペース（和室）、会食スペースは、それぞれの機能とは別に、一体化して休憩所やサードプレイスとして拡張することができます。そのほか会議室やバス待合スペースもサードプレイスの一部となります。場所に応じて家具やしつらえを整えることで、お気に入りの場所が見つかるように個性を持たせます。



6. 時間によって変化する活動領域

「廊下の少ない一体空間」では、設定した機能に縛られずに時間によって活動領域を変えることができます。特に自由に訪れることのできるサードプレイスでは、ひかりのみちなどに加えて使用していない空間を活用して一体化することで、お互いの距離感を保てるような様々な居場所がつけられます。

